

養父市立養父中学校 令和6年度学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

令和7年3月13日

1 学校教育目標

しなやかな強さを持ち、協働的・創造的に活動できる生徒の育成

2 本年度の重点目標

- ・学校パートナーの拡充と効果的な連携を基盤とした学校運営と教育活動の創造的な展開
- ・「授業のUD化」を意識した授業実践の創造と家庭学習の習慣化に向けた取組の工夫
- ・「チーム学校」として、共感的な生徒理解と適切かつ組織的な対応による生徒指導の充実
- ・1人1台端末活用の「日常化」に向けた環境の構築と教育活動のさらなる工夫

4 総合的な学校関係者評価

「コロナ禍」という言葉すらもはや聞かれなくなった状況の中で、教育活動について、生徒の実態や保護者、地域からの願いに基づいてねらい(趣旨)を設定し、柔軟にかつ創造的に企画・運営してきた。特に今年度は、「養父中教育のUD化」の第1期とし、実践的研究に着手するとともに、それに連動して「発達支持的生徒指導」の体制についても工夫を図った。こうした取組を通して、教職員による評価、保護者アンケートともに、引き続き前年度に比べて肯定的な回答が増え、全体として改善傾向にある。学校運営協議会においても、「学校が安定している」「生徒の意思が尊重され、学校教育目標が実行されている」「保護者が学校を信頼して子どもを預けていることや、よい学校になっていってほしいという期待を寄せていることがわかる」「教員の業務が積極的に改善され、その分、先生方が学校教育目標に沿った学校づくりができるよう善戦されていることがわかる」などの高い評価をいただくとともに、学力の定着や家庭での過ごし方等の継続的な課題については、「規則正しい生活ができていない生徒が比較的多く、出てきた問題の対処に追われている傾向にないか」「研修で得た学びを、勇気を持って生徒や家庭にインプットしていくことが大切なのではないか」といった次年度でのさらなる充実に向けて助言をいただいた。

福祉的な観点からのかかわりを要する不登校生徒やその家庭への対応についても、本校の中心的かつ継続的な課題となっており、関係機関とも連携しながら根気強く取り組んでいくことなど、励ましとともに期待の声をいただいた。

3 学校自己評価結果 < A:できた B:概ねできた C:あまりできなかった D:できなかった >

分野	評価項目	達成状況	学校の取組状況・改善の方策
小中一貫教育の推進	・取組の焦点化による共通理解・共通実践の深化 ・小中の協働的な活動による保護者・地域の理解の推進 ・小中のつながり・学びのつながりを踏まえた学習指導	A	・成果や課題の改善方策等が共有でき、実践交流も活発になった。 ・地域と連携し、小中合同のリサイクル活動を計画どおり実施した。 ・学年部会等での実践交流を通じて、指導に一貫性を図ることができた。
危機管理体制の整備	・生徒の危機管理対応能力の育成 ・保護者・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	A	・資料の活用や講師の招聘を通して、指導を具体的にを行うことができた。 ・今年度は、心肺蘇生法の訓練を実施することができた。
教職員の資質向上	・授業の工夫改善、業務改善の積極的な取組の推進 ・課題を共有した校内研修体制の確立 ・生徒理解と指導技術の向上に関する研修の実施	B	・ICTの積極的な活用と道徳の授業について研究授業を積極的に実施した。 ・家庭学習の習慣化に向けて実践を共有して取り組んだ。 ・「養父中 教育のUD化」に年間を通じて取り組み、教育活動の基盤とした。
施設設備の整備	・施設設備の安全管理体制の整備、安全点検の定期実施 ・学校環境の整備	B	・安全を優先に、水回りの補修や除虫作業等に積極的に取り組むことができた。 ・体育館の音響設備の新規入替え、備品の廃棄等に取り組んだ。
業務改善 勤務時間の適正化	・学校業務改善(職員会議の効率化) ・勤務時間の適正化に向けた取組 ・生徒と向き合う時間、分掌業務・授業準備等の時間の確保	B	・校務運営委員会を必ず開催し、諸会議の効率と短縮に取り組んでいる。 ・月や週、学期や年間を見通したメリハリのある業務の推進に取り組んだ。 ・年間を見通した水曜日の取扱い、年休や各種休暇の積極的取得に取り組んだ。
生徒指導の充実	・報告・連絡・相談の徹底と関係機関・家庭保護者との連携 ・いじめのない学校づくり(積極的認知と組織的な早期対応) ・よりよい人間関係・学級づくりに向けた実態調査結果の活用	B	・生徒指導部会等をこまめに開催し、早期対応につなげることができた。 ・いじめアンケート等を定期的実施し、こまめな相談につないだ。 ・生活アンケートやi-checkを活用して学級経営の見直し・改善に努めた。
学習指導	・きめ細かな学習指導と学習意欲を高める授業づくり ・タブレットの活用を含めた指導法等の工夫改善	B	・積極的な相互参観による意見交流により、授業改善に取り組んだ。 ・「朝活動」の工夫により、学習に取り組む姿勢づくりに取り組んだ。
道徳教育	・道徳的実践力の育成 ・ローテーション授業の実施と道徳の評価の改善工夫	A	・柔軟な指導方法等の工夫に向けて、先行実践に基づく授業づくりに努めた。 ・ローテーション授業を通して、全員で授業改善を図ることができた。
総合的な学習の時間	・主体的な課題発見・解決につながる学習指導	A	・「報告会」の形態や校外学習の企画・運営の工夫を図ることができた。
特別活動	・主体性を育む行事の工夫改善と生徒会活動の充実	A	・学校行事等、生徒の主体的な企画による活動運営を行うことができた。
キャリア教育	・高校入学選抜制度を踏まえた進路指導の充実 ・「そうあんくんの日」の取組を含むキャリア教育の研修の推進と実践化	A	・3年間を見通した体系的な進路指導となるように工夫を図っている。 ・水曜日の過ごし方について生徒会と協働し、自律的な生活の構築を促した。 ・研修の機会の確保と、キャリアノート等の取組の工夫を図る。
人権教育	・自尊感情を育み、人権意識を高める指導 ・校是「生きるとは分かちあうこと」の具現化	A	・人権週間(人権作文の発表、映画鑑賞等)を実施し、充実を図った。 ・国際交流員とのかかわりなどを通して、人権意識の高揚を図った。
特別支援教育	・個別的教育支援計画・指導計画に基づいた指導・支援 ・通級指導の工夫改善を通した「通級」への理解促進 ・SCやSSW、県立特支学校CO等との連携強化	B	・生徒の状況把握とその共有化により見直しを図り、実践化に努めた。 ・保護者とのこまめな情報共有により緊密化を図り、理解を促せた。 ・県特別支援学校の担当教員との連絡を密にし、アセスメントに役立てた。
情報教育	・ICT機器等の活用による指導方法等の工夫 ・タブレットの利用機会の促進とその価値付けの共有化 ・生徒の情報モラルの向上に向けた家庭との取組の強化	B	・ICT機器を活用し、学習の焦点化、可視化、共有化に役立てた。 ・タブレットを家庭に持ち帰らせる機会が限定されることが課題である。 ・PTAと連携し、利用状況調査の結果に基づき「親子学習会」を実施した。
国際理解教育	・国際理解、多文化共生の態度の育成	B	・国際交流員との定期的なかわりをもとに、活動の場を広げていきたい。
福祉教育	・福祉体験活動の推進、高齢者・障害者の理解(人権意識)	A	・福祉体験活動、ふれあい郵便等、関係事業所と協働して実施した。
食育	・食育と給食指導の充実	A	・栄養教諭と連携して「6年生登校日」に実施するなど計画的に実施した。
SDGs推進	・環境問題等に関心を持ち、課題解決への意欲を高める指導	C	・取組の具体化がなかなか難しく、継続的な課題となっている。
健康教育	・健康に関する実践意欲を高める指導(食育や眠育の推進)	A	・実態調査を踏まえて食育や眠育、性教育の取組を具体的に進めた。
読書活動	・朝読書の充実(図書室の活性化)	A	・生徒会とともに図書室の環境や蔵書の整備に努め、利用を活性化させた。

5 評価項目の学校関係者評価

自己評価の適切さ
<ul style="list-style-type: none"> ・相互の授業参観や学年部会、全体研修会等の計画的な開催により、指導力・実践力の向上が図られている。 ・小中で子どもの情報が丁寧に引き継がれている。
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の不審者対応訓練に続き、今年度は心肺蘇生法の訓練にも取り組み、日常的な危機意識の高揚につながっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・「養父中教育のUD化」の取組が体系化され、生徒の能力をさらに伸ばす上で大きな役割を果たしている。 ・生徒が自分自身の進路をしっかりとらえて、家庭学習を含めて普段の学習に臨めるよう工夫を図ってほしい。 ・普通教室のLED化、コンピュータ室を集会室として利活用するなど、生徒の日常生活に密着して整備がなされている。 ・年間を見通した水曜日の取扱いや採点システムの導入などの業務改善に向けた取組が、学校の活性化や教職員のモチベーションの増進によりよくつながっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・不登校対策は、養父中の大きな課題であり、その改善に向けて関係機関とチームを組んでいる努力と成果を大いに評価したい。 ・定期的なアンケートの効果的な実施を引き続きお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力差が広がらないよう、指導上の課題を共有し、授業改善に努め、引き続き「分かる授業」に努めていただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ローテーション授業の体制が整っていることが素晴らしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに取り組んでいる校外学習は、生徒の主体性や積極性を育成する上で有効である。 ・「やっぶーの日」や「シン・そうあんくんの日」の生徒提案型の取組など、生徒が自主と責任をとらえながら生活していく取組のさらなる充実を期待したい。 ・「人権週間」の取組の継続とさらなる充実を期待したい。 ・制服の変更を契機に、ジェンダーレスへの理解が深まってきている。
<ul style="list-style-type: none"> ・県立特別支援学校と一層の連携を図り、専門的な観点も参考にして個に応じた指導に、さらに工夫を図られたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ等の利用に関する「親子学習会」の開催は非常に興味深く、トラブルに巻き込まれる未然防止に大いに役立っていると感じる。普段の学校での指導とうまく関連させて、さらに効果的な取組にしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ等でいろいろな情報を得られる昨今であっても、国際交流員との直接交流を通して、多文化共生への意識が高まることを期待します。
<ul style="list-style-type: none"> ・計画的にカリキュラムに位置づけて講師を招聘し、学年に応じた性教育の講座を設けていることが素晴らしい。 ・朝読書や読み聞かせの取組は、ぜひ継続・充実させてほしい。